

第 1 回北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会 議事要旨

日時：令和 5 年 11 月 14 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター カンファレンスルーム 2 A

第 1 回 北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会 次第 【別紙 1】

「北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会」規約（案） 【別紙 2】

資料 1：北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会現地視察_意見交換会 議事録

資料 2：北上川下流自然再生計画書（素案）〔概要〕

資料 3：北上川下流自然再生計画書（素案）

資料 4：欠席した委員の意見

資料 5：北上川下流・鳴瀬川河川環境検討委員会 今後の予定

資料 6：環境省からの情報提供

委員会の規約について

- ・了承された。

現地視察時（8/29, 9/6）の意見交換会の意見紹介（資料 1）

議事 1：北上川下流自然再生計画（素案）について（資料 2, 3, 4）

- ・本計画は、北上川水系の宮城県側の河川環境を未来により良い状態で継承し、人と川との結びつきを取り戻すことを目的にしている。
- ・計画の前半 10 年は汽水域について東日本震災前の生態系に戻すこと※、後半 10 年は北上川下流全体について本来の生態系機能を再生・保全・創出するとともに、川での生業や川と地域社会との繋がりを再構築し、歴史・文化豊かな北上川を継承する目標とすることで概ね了承された。
- ・前半 10 年の事業メニューとして、整備（工事を伴うもの）では盤下げ、ヒヌマイトトンボ生息地の環境改善、ウナギ水路、環境学習の場、堤防嵩上げと併せた環境再生を行うこと、対策（工事を伴わないもの）では河口部のモニタリング調査（地形、生物相）、重要種の順応的管理（外来種駆除）、環境学習の支援等を計画していることです。

※検討の背景として、地域の生態系基盤、原風景、生業の場でもある北上川のヨシ原は震災で半減し、震災から 10 年以上経過しても消失面積の 40%弱の回復に留まっている。また、震災後、東北地方で唯一生息している日本北限のヒヌマイトトンボ個体群の生息環境が、広域的な地盤上昇などのため悪化している。

- ・目標設定については以下の意見があった。
 - ・震災前後の生物相の変遷について詳しく整理すると、課題が明確になり、事業の目標設定が出来るのではないか。
 - ・目標とする生態系機能はできるだけ具体的に整理すること。
- ・モニタリング調査については以下の意見があった。
 - ・独自のモニタリング調査も必要だが、従来から行われている河川水辺の国勢調査の結果も活用できると考えられる。
 - ・ヨシ原の再生の効果として、チュウヒ・ヨシゴイ・ヨシキリ類等の生息場の向上等があることを記載すること。
 - ・ミツバチ類は、農薬の影響、セイタカアワダチソウ駆除の指標として選定を検討していただきたい。
 - ・北上川ならび河川環境に典型的な種も健全度の指標種として選定してはどうか。
 - ・ヤマトシジミは、ヨシ原との関係が非常に強いため、この計画との関係を整理すること。
 - ・モニタリング対象種は、食物網の中に位置づけ・生態系における役割が一般の方々にも通じるような表示を目指してほしい。地域資源としてシジミやヨシが商業利用されている関係性も分かるとさらによい。
 - ・ヒヌマイトトンボと環境や他の生物との関係は、別途示してはどうか。
- ・利活用については以下の意見があった。
 - ・ヨシ刈り体験等の四季を通した活動や生物暦をまとめたカレンダーのような資料を作成するとよい。

以上は、当日欠席した委員への事前説明時の意見も含む。

議事 2：今後の予定について【資料 5】

- ・第 2 回委員会は、引き続き計画（素案）について、令和 6 年 1 月頃に開催予定。
- ・来年度中の計画策定を目指す。

議事 3：情報提供【資料 6】

- ・環境省から「三陸復興国立公園 石巻 川のビジターセンター」の施設概要について説明があった。

以上